

絶望的な通貨リラ

ツイッター好きのトランプがようやく今日、記者会見に臨む。トランプの言動に振り回されてきた市場が注目するのは言うまでもない。最も振り回されてきた通貨の一つはメキシコペソだが、トランプの言動に関係なく、確実に下落している通貨がある。トルコリラだ。

米国の大統領選以降を見ても22%ほどの下落だ。ペソよりも大幅な下落だ。

第三四半期のGDPはマイナス1.8%だった。政情不安から資本流出も大きく、通貨の売り圧力が続く。資本流出を食い止めるために中央銀行は利上げをしたが、大統領から金利を変更するなら下げろ、と恫喝された。革命の失敗以降多くの有能な民間人や役人を投獄してきた大統領に逆らうのは命がけだ。中央銀行は直近の会議では通貨安が止まらないのに利上げを見送った。中央銀行は世界的に市場の信頼を失っているが、トルコの場合は別次元だ。

そこにドルの利上げと原油価格の上昇だ。新興国全般から米国への資本流出圧力が加わり、原油輸入国のトルコは経常収支の一層の悪化が必至だ。ドル建て負債はリラの大幅な下落によって返済額が膨張している。外貨獲得の数少ない手段の観光産業はテロの続出で大打撃だ。今後倒産や失業者の増加は避けられない。

これだけ悪材料が揃うのは珍しい。普通はショートポジションが積み上がると締め上げを狙って逆張りをする市場参加者が出てくる。人に行く裏に道あり花の山、というわけだ。

だが現在のリラに反転の望みを抱くのは難しい。2年前のブラジルレアルの状況に似ている。違いがあるとすれば、大統領が国家権力を掌握しているかどうかの違いだ。その点ではトルコの大統領が政策や考え方を変えれば、事態は劇的に変化する可能性はある。だが今のところその兆候は皆無だ。